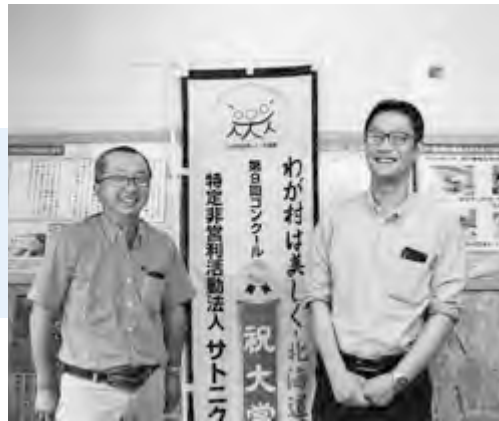




月形町ならではの「農福連携」で心も身体も元気に

楠 順一 (くすのき じゅんいち) (左)
特定非営利活動法人サトニクス代表理事
佐々木 英嘉 (ささき ひでよし) (右)
特定非営利活動法人サトニクス事務局長



月形町は、札幌中心部から車で一時間ほどにあり、月形樺戸博物館(旧樺戸集治監)が有名で、初代典獄の「月形潔」の姓が由来で月形村として誕生しました。

その月形町で、障がい者や若者の就労の場として、地元野菜を使った昔ながらの漬物作りや発酵食品の製造を行っている『特定非営利活動法人サトニクス』代表理事の楠順一さんと事務局長の佐々木英嘉さんにお話を伺いました。

《障がい者や若者の自立と社会参加》

2012年に障がい者支援施設の「雪の聖母園」の旧寮舎の建物を再利用し、特定非営利活動法人サトニクスが発足、2014年に就労継続支援A型事業所として「サトニクス醸房」が認可され活動しています。

障がい者や若者等の自立と社会参加のきっかけとなる場とし、それぞれの個性と人格を尊重し、就労に必要な知識と能力の向上のための訓練となるのが目的です。主に、漬物製造が中心で、地元の農家さんから規格外のキュウリやナス、摘果*メロン等を安価で調達したり、漬物レシピを聞いたり、地域の方々と交流も盛んです。

《漬物の製造・販売》

漬物の種類は、醤油漬け、玄米漬け、ビール漬け等いろいろあります。昔ながらの手法の無添加・無着色、一つひとつ手作りで、旬の野菜を使用して作る漬物は絶品です。また、その他に乾燥野菜、手作り味噌があり、どれも身体に優しい商品です。



皆楽公園にある直売所「花の里月形」

2018年に「わが村は美しく北海道」コンクールで優秀賞、そして2019年には見事大賞を受賞しました。優秀賞を受賞した時は14名の利用者がいましたが、現在は7名です。だいたい、2～5年くらいの期間を経て一般企業に就労=卒業する利用者もいる一方で、居心地が良いせいか設立当初からいる利用者もいて、それぞれ成長していく姿を見るのは何よりも嬉しいとのこと。

サトニクスでは、町内の皆楽公園で直売所「花の里月形」も運営しており(6～10月)、漬物の他、地元の農産物や月形刑務所で作られた製品なども販売しています。最近では、コロナウイルスの影響か園内のキャンプ場が人気で、直売所の売上も好調です。

製造した商品は月形町内に加え、札幌市内のエスタやホクレンショップ、岩見沢市内Aコープ、砂川「そらいちマーケット」でも販売しています(通年)。

《農業と福祉の町》

一般の農家は天候ありきで作業を考えますが、この農福連携は人ありきで考えなければならないため、毎日それぞれの利用者の状態や個々の得意分野を考慮し、観察しながら作業を進めていきます。

サトニクスでは、農福連携には人間が本来持っている力を引き出す効果があり、利用者の心も身体も元気になる、そこに最大の価値があると考えています。

また、農家さんも最初は戸惑いもありましたが、月形町ならではの農業と福祉の町の連携が共に支え合い地域の活性化を進めていく形ができてつつあります。

今後は、農業・福祉に加え、観光にも力を入れ、身近な環境の中で日本の昔ながらの生活(里の暮らしかた→里に暮らす)を体験できる何か新しいことを考えて、月形町をアピールしたいと笑顔でおっしゃっていました。

*摘果

果実の小さいうちに間引くこと。大きい果実を収穫するためと、なり過ぎによる樹勢の衰えを避けるために行う。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しく北海道」第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。